

自由な発話を促進する Small Talk の継続的実践と Task による総括的評価

教職実践専攻・教科領域実践コース

学籍番号 22GP302 氏名 中村 由惟

1 はじめに

現行の学習指導要領では、外国語科の目標として、言語活動を通してコミュニケーション能力を育成することが述べられている。言語活動においては、内容及び使用する言語形式の両方を児童が自由に選択・決定することが肝要である。また、小学校学習指導要領外国語科「話すこと〔やり取り〕」の領域においては、目標の一つに、「自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な文章を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。」と記載されている（文部科学省，2017）。山口（2020）は、この目標を、「やり取り」の際、それまでの学習や経験で蓄積した英語で話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり、答えたりして、意味のある会話を継続していくことができるようにすることを指している。」と解釈している。学習した教科書のターゲットフレーズのみを繰り返し練習したとしても、コミュニケーション能力を育成することは困難である。コミュニケーション能力は、実際のやり取りの目的・場面・状況に応じて、即興的にやり取りすることを通して育成することができる。しかし、筆者が、令和4年度、公立小学校に通う児童26名を対象に、一単元を通して Task-based Language Teaching（以下 TBLT）に基づいた授業を実践し、児童の発話をテキストマイニングを援用して分析した。その結果、児童の発話の多くが教科書の目標文に基づく定型化されたものであることが示された。このようなパターン化されたやり取りは、オーセンティックなコミュニケーションとすることはできない。そこで、令和5年度は、Small Talk を継続的に実施し、その成果を2単元学習後の総括的評価によって検証することにした。以上から、パターン化されない児童の自由な発話を促すための Small Talk の継続的実践による児童の発話の変化を報告する。

2 令和4年度の実践と取組

（1）先行研究

① TBLT について

TBLT の定義は複数存在する。今回の実践では、Skehan（1998）と小口（2018）の定義を参考にし、下記の5つを TBLT の定義とした。

- i) 意味内容の伝達が中心となる。
- ii) 学習者のもつ意見や情報に違い（gap）がある。
- iii) 真正性がある。
- iv) 課題の達成が優先される。
- v) 評価は、主にタスク活動の成果内容によって行われる。

また、TBLT の流れは、TBLT 型の授業

展開（Wills, 1996）を参考にした。主な流れは以下のとおりである。

- ・タスクと題材の導入（Pre-task）
- ・タスクの活動（Task Cycle）
- ・言語項目への焦点化（Language Focus）

② TBLT の可能性

松村ら（2017）は、TBLT の優れている点として次の3点を挙げている。

- i) 学習者が知りたい表現を追求するかたちで新しい表現や文法に出会うことで、目標言語表現を効果的かつ意味のある形で学ぶことができる点。
- ii) 必要が生じる度に学習者が既習事項をリソースとして駆使するため当該事項の習得が効果的に促される点。
- iii) 正確さへの過度のこだわりと不完全な目標言語話者という自己認識から学習者を解

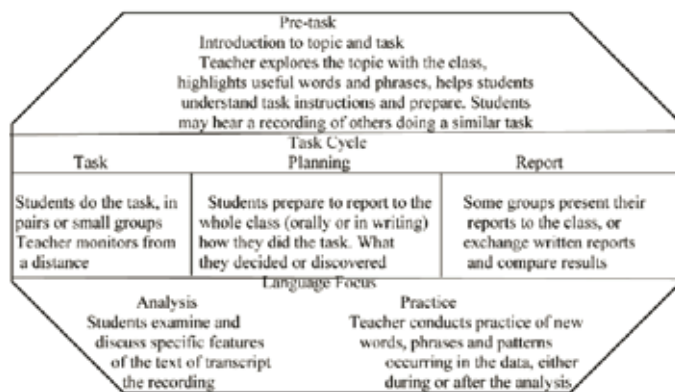


図1 TBLT型の授業展開（Wills, 1996）

放できる点。

(2) 令和4年度の研究目的とリサーチクエスション

① 令和4年度の研究目的

外国語科における TBLT の導入可能性を調査する。

② 令和4年度のリサーチクエスション

小学校外国語の授業に TBLT を導入することにより，児童の自由な発話を促進することができるのではないか。

(3) 実践の内容と方法

令和4年度の学校フィールド実習では，以下の実践を行った。

① 対象 公立小学校の児童第5学年（26名）

② 単元名 Unit 7 Welcome to Japan. (NEW HORIZON Elementary English Course 5:東京書籍)

③ 単元のターゲットフレーズ

A: Why do you like winter?

B: We have New Year's Day in winter.

A: What do you do on New Year's Day?

B: I usually play *karuta*.

④ 単元の実践概要

授業実践の流れは以下のとおりであった。（全8時間）

時	活動の位置づけ	主な学習活動
1	タスクと題材の導入 (Pre-task)	<ul style="list-style-type: none"> 日本や地域の四季，文化についてのやり取りを聞き，概要を理解する。 国語の学習や地域の年中行事との関連に気付く。 タスクの遂行に必要な単語を練習する。 単元のタスクを知る。 青森県や日本のすばらしさを外国人に発信し，見た外国人が旅行先に日本を選びたいくなるような動画を作ろう。 ふりかえりを書く。
2	タスクと題材の導入 (Pre-task)	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールを確認する。 青森県の郷土料理や特産物に関するやり取りを聞き，指導者からの簡単な英語の質問に答える。 タスクの遂行に必要な単語を練習する。 タスクの遂行に必要な表現を練習する。 ふりかえりを書く。
3	タスクの活動 (Task Cycle)	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールを確認する。 地域の年中行事とその行事ですることや食べることに關するやり取りを聞き，指導者からの簡単な英語の質問に答える。 タスクの遂行に必要な単語を練習する。 “Let's Sing”を実践し，タスクの遂行に必要な表現を練習する。 日本と地域の遊びや年中行事について，スリーヒントクイズを出し合う。 ふりかえりを書く。
4	タスクの活動 (Task Cycle)	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールを確認する。 前時の復習をとおしてスリーヒントクイズを出し合う。 タスクの遂行に必要な単語を練習する。 “Let's Chant”を実践し，タスクの遂行に必要な表現を練習する。 日本や地域の年中行事で，することや食べるもの，行く場所などについてたずね合う。 ふりかえりを書く。
5	タスクの活動 (Task Cycle)	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールを確認する。 “Let's Sing”を実践し，タスクの遂行に必要な表現を練習する。 好きな季節とその理由に関するやり取りを聞き，指導者からの簡単な英語の質問に答える。 タスクの遂行に必要な単語を練習する。 好きな季節とその理由を選択し，既習の単語や表現を用

		いて伝え合う。 ・ふりかえりを書く。
6	タスクの活動 (Task cycle)	・単元のゴールを確認する。 ・自分が好きな季節とその理由に関するイラストを描く。 ・描いたイラストを見せながら、ペアで好きな季節とその理由について伝え合う。 ・ふりかえりを書く。
7	タスクの活動 (Task Cycle)	・単元のゴールを確認する。 ・これから来日する外国人に向けて、ペアで日本や地域の魅力を伝えるための動画を撮影する。 ・ふりかえりを書く。
8	タスクの活動 (Task Cycle) 言語項目への焦点化 (Language Focus)	・単元のゴールを確認する。 ・前時に撮影した動画をロイロノートを用いて共有し、視聴し合う。 ・他のペアの動画のよいところを日本語で伝え合う。 ・タスクの遂行に必要な表現を練習する。 ・ふりかえりを書く。

⑤ 指導の工夫

先述した TBLT の定義に基づき、授業実践に当たり次の 5 つの工夫をした。

- i) 児童の発話において、文法や発音の正確さは明示的に修正せず、意味が伝わっていれば良いこととした。ただし、児童の発話後に指導者が正しい文法表現や発音をリキャストし気付かせるようにした。
- ii) 児童同士のコミュニケーションにおいては、情報や理由の違い (gap) が存在するような活動を設定した。
- iii) 新型コロナウイルスによる規制緩和から海外旅行の需要が高まっている社会的背景に気付かせ、単元のゴールへと導くことで真正性のある場面設定をした。
- iv) 単元のゴールを毎時間確認し、達成することを意識させた。
- v) 評価は、主にやり取りの内容 (思考・判断・表現) に重点をおいた。

⑥ データの分析方法

単元の 7 時間目に、児童がペアごとに 1 台のタブレット端末を用いて動画を撮影・保存した。筆者は、すべてのペアの動画における発話の文字起こしを行った。最後に、児童の発話をテキストマイニングの共起ネットワークを用いて分析した。

※共起ネットワーク…語と語のつながり関係、段落または文章中における語の出現パターンの類似性をもとに、文章中におけるそれらの語のつながり関係をネットワーク図として可視化したもので、文章を分析する際に利用されている。

(5) 結果と考察

実践から得られたデータは、次項の図 2 のとおりである。児童の発話は、5 つのネットワークで構成されている。i のネットワークは、have, you, we, why, welcome, Japan, I, what, do, like, season により構成されている。よって、多くの児童が、Welcome to Japan. What season do you like? I like.... Why do you like ...? We have の表現を使用していたことがわかる。ii のネットワークは、big, ride, slider により構成されている。よって、多くの児童が、大きな滑り台に乗ることについて言及していたことがわかる。児童の発話データも合わせて分析したところ、この滑り台は、弘前雪灯籠まつりに設置されるものであることがわかった。iii のネットワークは、beautiful, Jagara により構成されている。じゃがらとは、ねふた祭りで使用する楽器である。よって、複数名の児童が、ねふた祭りについて言及し、じゃがらを鳴らすことを伝えていたことがわかる。iv のネットワークは、Neputa により構成されている。よって、多くの児童がねふた祭りについて言及していることがわかる。v のネットワークは、good, candy により構成されている。児童の発話データも合わせて分析したところ、ハロウィンに言及している児童が、candy を使用していた。以上の分析から、多くの児童が、好きな季節とその理由となる行事をたずね合うやり取りのみをしていたことが明らかになった。よって、児童の発話はパターン化していることがわかる。以上のことから、今回の TBLT に基づいた授業実践において、児童は基礎的・基本的なターゲットフレーズを身に付けることはできたが、型を破り、創造的で自由な発話を実現する段階には至らない結果となった。この原因として、単元を通して教科書のターゲットフ

レーズを意識しすぎて指導したため、児童が授業の中で多様な英語表現に出会う機会が少なかったことが考えられる。特に、教科書のターゲットフレーズから離れたやり取りの機会がなかったことが大きな原因であることが考えられる。デジタル教科書に掲載されているやり取りのモデル動画（NEW HORIZON Elementary English Course 5, p.70）、及び歌やチャンツ、あいさつ、好きな季節とその理由、理由となる行事においてすることについてたずね合う表現が必ず含まれていた。児童のパフォーマンス動画においても同様の構成が多かったことから、教科書の動画や歌、チャンツの英語表現に縛られたことが考えられる。

（6）令和4年度の課題

次の3つが課題として挙げられる。

- ①教科書には、各単元にターゲットフレーズがあり、教科書もターゲットフレーズを習得するための構成となっている。児童の自由な発話を目指すなかで、教科書の内容をどのように扱うべきか。
- ②児童が伝えたい意味内容に照らし合わせた言語形式を選択・決定できるようにするためには、豊富な言語形式にふれる機会の設定が必要である。どのようにしてこの機会を保障するのか。
- ③1年次は、TBLTの実践を1単元しか行うことができなかった。TBLTを継続すると児童の発話にどのような変化があるのか、中・長期的に追究する必要がある。

3 令和5年度の実践と取組

（1）先行研究

① Small Talk について

文部科学省「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」には、高学年向けの活動として、Small Talk が位置づけられている。Small Talk とは、「児童が興味・関心のある身近な話題について、自分自身の考えや気持ちを楽しみながら伝え合う中で、既習表現を繰り返し使用し、その定着を図るために行うもの」とされている。また、目的は、次の2つとされている。1つ目は、既習表現を繰り返し使用できるようにして定着を図ることである。2つ目は、対話の続け方を指導することである。特に、対話の続け方を指導するために、表1の表現例が記載されている。

② Small Talk の可能性

山口、巽（2020）は、「外国語活動・外国語科の活動を通して児童は各単元で設定された様々な英語表現に触れながら学習を続けている。しかし、多くの児童は、各単元の

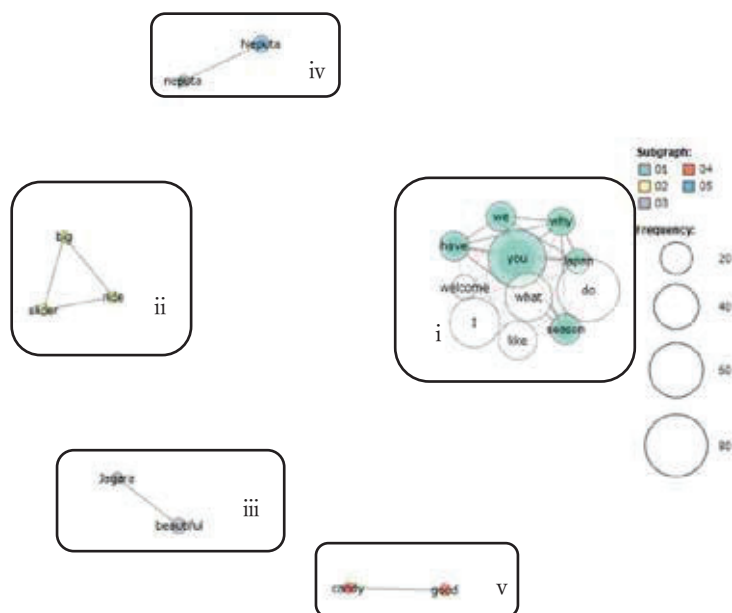


図2 パフォーマンス動画における児童の発話

表1 対話を続けるための基本的な表現例

対話の開始	対話の始めの挨拶 Hello./How are you?/I'm good. How are you? など
繰り返し	相手の話した内容の中心となる語や文を繰り返して確かめること 相手：I went to Tokyo. 自分：(You went to) Tokyo. など
一言感想	相手の話した内容に対して自分の感想を簡単に述べ、内容を理解していることを伝えること That's good./That's nice./Really?/That sounds good. など
確かめ	相手の話した内容が聞き取れなかった場合に再度の発話を促すこと Pardon?/Once more, please. など
さらに質問	相手の話した内容についてより詳しく知るために、内容に関わる質問をすること 相手：I like fruits. 自分：What fruits do you like? など
対話の終了	対話の終わりの挨拶 Nice talking to you./You, too. など

目標表現を単元内の活動では用いることができるものの、既習の表現を目的・場面・状況に応じてその場で用いる即興的なやり取りの会話の場では、適切に使用することができないことが多い。英語表現を実際の会話の中で適切に使用できるようにするには、既習表現を繰り返し使用して定着させる Small Talk などの活動が有効であると考えられる。」と述べている。また、山口、巽 (2020) が小学校 1 年生から 6 年生を対象に、英語の各単位時間に帯活動として「話すこと (やり取り)」を中心とした Small Talk を位置付けた結果、すべての学年で発話総語数は第 1 回目から第 2 回目にかけて増加し、2 学年を除いて統計的に有意な差があった。

(2) 令和 5 度の研究目的とリサーチクエスチョン

① 今年度の研究目的

- i) 小学校外国語科における Small Talk の継続的実践は、児童の自由な発話を促進するために効果的であるか調査する。
- ii) Small Talk の継続的実践による発話の変化を TBLT に基づいた 2 単元の総括的評価によって検証することの妥当性を検討する。

② 令和 5 年度のリサーチクエスチョン

- i) 小学校外国語で、毎時間 Small Talk を実践することにより、児童の自由な発話を促進することができるのではないか。
- ii) 2 単元の総括的評価として TBLT を導入することにより、Small Talk の継続的実践による発話の変化を適切に評価することができるのではないか。

(3) 実践の内容と方法

令和 5 年度の学校フィールド実習では、以下の実践を行った。

① 対象

公立小学校の児童第 6 学年 (26 名)

② 内容

毎回の授業の導入で Small Talk を実践した。そして、その成果を TBLT に基づく 1 時間の授業を実践して検証した。Small Talk のテーマは、“What day?” とした。ふり返りの指標として、山口 (2019) の「自然な会話のため 7 つのステップ」を図 3 にし、提示した。

自然な会話のための 7 つのステップ

- ステップ 1 Smile (笑顔で「聞いているよ」と相手に好意を伝える。)
- ステップ 2 うなづく, Aha. I see. (話を理解していることを伝える。)
- ステップ 3 くり返し, Oh, ... (繰り返すことで伝わっていることを伝える。)
- ステップ 4 Good! Great! Cool! (相手の話についてほめる。)
- ステップ 5 Me, too. Really? (賛成か反対か自分の意思を伝える。)
- ステップ 6 Why (What, When, Where, Which, How)? (さらに詳しく尋ねる。)
- ステップ 7 I think ... (相手の話について自分の意見を言う。)



図 3 自然な会話のための 7 つのステップ 山口 (2019)

また、総括的評価について、Small Talk の継続的実践による児童の発話の変化を中・長期的に分析するため、実践時期は2単元学習後とした。第1回の総括的評価は、Unit 1 と Unit 2 の学習後に実践した。タスクは、「海外の中学校から受験する学校を選び、面接試験に挑戦しよう。」とした。海外の中学校の選択肢として、sports junior high school, music junior high school, study junior high school, art junior high school の4つを提示した。第2回の総括的評価は、Unit 3 と Unit 4 の学習後に実践した。タスクは、「自分が行ったことのある場所の中から全校遠足にぴったりな場所を先生に提案しよう。」とした。第3回の総括的評価は、Unit 5 と Unit 6 の学習後に実施した。タスクは、「きのうの夜ごはんについてくわしく伝え合おう。」とした。一方の児童が、英語の音声のみで昨日の夜ごはんについてくわしく説明し、もう一方の児童が音声を聞いて相手の夜ごはんのイラストを描いた。また、最後に、イラストを見せ合って伝わっていたかどうかを確かめる活動も実施した。

③教科書 NEW HORIZON Elementary English Course 6:東京書籍

- 単元名 Unit 1 This is me! 自分についてスピーチをしよう。
 Unit 2 How is your school life? 宝物を伝え合おう。
 Unit 3 Let's go to Italy. 旅行代理店でおすすめの国を紹介しよう。
 Unit 4 Summer Vacations in the World 夏休みの思い出を紹介しよう。
 Unit 5 We all live on the earth. 食物連鎖（フードチェーン）について発表しよう。
 Unit 6 Let's think about our food. オリジナルカレーを発表しよう。

④各単元のターゲットフレーズ

・ Unit 1

I'm Emily. I'm from Singapore. I like dogs. My birthday is May 5 th.

・ Unit 2

I live in Ueda in Japan. I go to Naka Elementary School. I usually watch soccer games on Sundays. My treasure is this soccer ball.

・ Unit 3

Italy is a nice country. You can see the Colosseum. You can eat pizza. It's delicious.

・ Unit 4

I went to the mountains. I enjoyed camping. I ate curry and rice. It was great.

・ Unit 5

A: Where do sea turtles live?

B: Sea turtles live in the sea.

A: What do sea turtles eat?

B: Sea turtles eat jellyfish.

・ Unit 6

I ate curry and rice last night. I usually eat beef curry at home. The beef is from Australia. Beef is in the red group.

⑤データの分析方法について

毎時間の Small Talk では、児童がペアごとに1台のボイスレコーダーを用いて音声を保存した。筆者は、すべてのペアの音声における発話の文字起こしを行った。最後に、児童の発話をテキストマイニングの共起ネットワークを用いて分析した。

(5) 結果

①第1回総括的評価

結果は、図4のとおりである。児童の発話は、7個のネットワークで構成されていることがわかる。iのネットワークは、I, you, see, study, be, my, treasureで構成されている。このことから、“My treasure is ...”のターゲットフレーズを用いて自己PRをしていた児童が多かったことがわかる。また、“I study ...”や“I see ...”を使用して伝え合っていたことがわかる。iiのネットワークは、usually, Konotori, Nintendo, Switch, doctor, word, math, wantで構成されている。医者になりたい児童が医療ドラマの影響を受けたことや、自由時間にしているゲーム、好きな言葉について話していたことがわかる。iiiのネットワークは、hard [Adj], thank, also, physical, strength, haveで構成されている。このネットワークは、sports junior high schoolを選択した児童について示していることがわかる。ivのネットワークは、so と carで構成されている。vのネットワークは、cool と hard [Adj]で構成されている。viのネットワークは、many と artで構成されていることから、art junior high schoolを選択した児童がたくさんの芸術作品を見たいと言っていたことがわかる。viiのネットワークは、play と beautifulで構成されている。

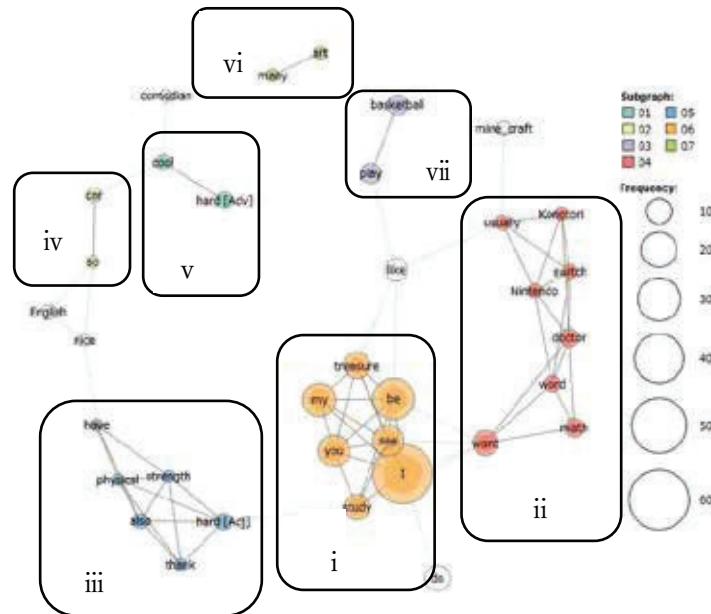


図4 第1回総括的評価の結果

②第2回総括的評価

結果は、図5のとおりである。児童の発話は、10個のネットワークで構成されていることがわかる。iのネットワークは、I, you, enjoy, see, name, be, study, go, eat, beautifulで構成されている。このことから、自分や相手がすることについて、一般動詞を用いてくわしく伝えていることがわかる。iiのネットワークはmy, Yayoiikoinohiroba, animal, feeding, best, feed, yayoi-zooで構成されている。このことから、複数名の児童が、弥生いこいの広場という動物園を提案し、その理由としてfeedやfeedingを用いていることがわかる。iiiのネットワークは、apple-park, apple, sliderで構成されている。このことから、複数名の児童がりんご公園を提案し、りんごを見られことや滑り台で遊ぶことを理由として話していることがわかる。ivのネットワークは、game, quiz, Hirosaki-parkにより構成されている。このことから、多くの児童が弘前公園を提

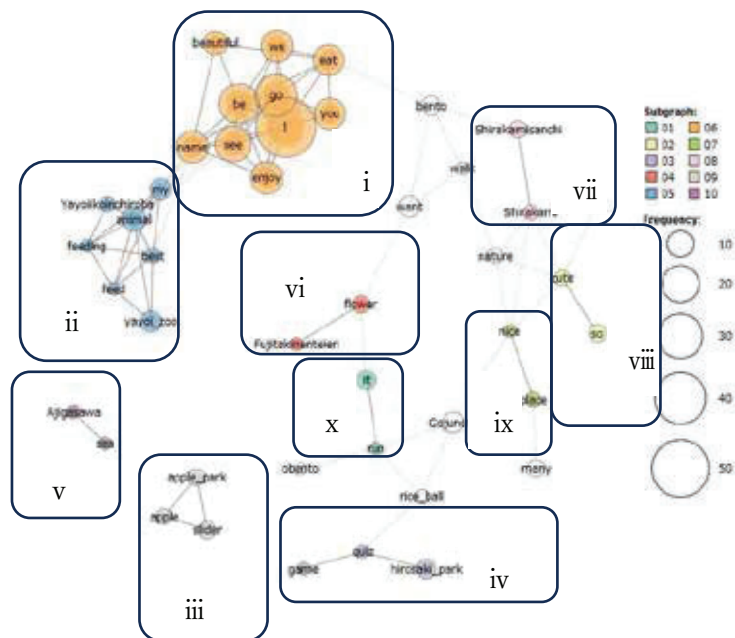


図5 第2回総括的評価の結果

案していることがわかる。ivのネットワークは、game, quiz, Hirosaki-parkにより構成されている。このことから、多くの児童が弘前公園を提

案し、その理由にクイズラリーで遊ぶことやゲームをして遊ぶことがについて話していることがわかる。vのネットワークは、Ajigasawaとseaで構成されている。このことから、複数名の児童が、鰯ヶ沢町の海に行くことを提案していることがわかる。viのネットワークは、Fujitakinenteienとflowerで構成されている。このことから、複数名の児童が、藤田記念庭園に行くことを提案し、そこで見ることができる花について言及していることがわかる。viiのネットワークは、ShirakamisachiとShirakamiで構成されている。複数名の児童が、白神山地に行くことを提案していることがわかる。viiiのネットワークは、soとcuteで構成されている。形容詞と副詞の使用が少ない中で、“so cute”の表現が、児童にとって身近であったことが考えられる。ixのネットワークは、niceとplaceで構成されている。xのネットワークは、runとitで構成されている。

③第3回総括的評価

結果は、図6のとおりである。児童の発話は、7個のネットワークで構成されていることがわかる。iのネットワークは、I, be, color, you, eat, rice, brown, see, roundで構成されている。iiのネットワークは、cabbage, pork, cut, ju-ju, mix, tyuru-tyuru, saltで構成されている。ジェスチャーやオノマトペを使って伝えようとしていることがわかる。iiiのネットワークは、ramen, nori, curry, yellow, manyで構成されている。相手から聞いた音声に基づいて、相手の夜ごはんの絵をワークシートに描くタスク

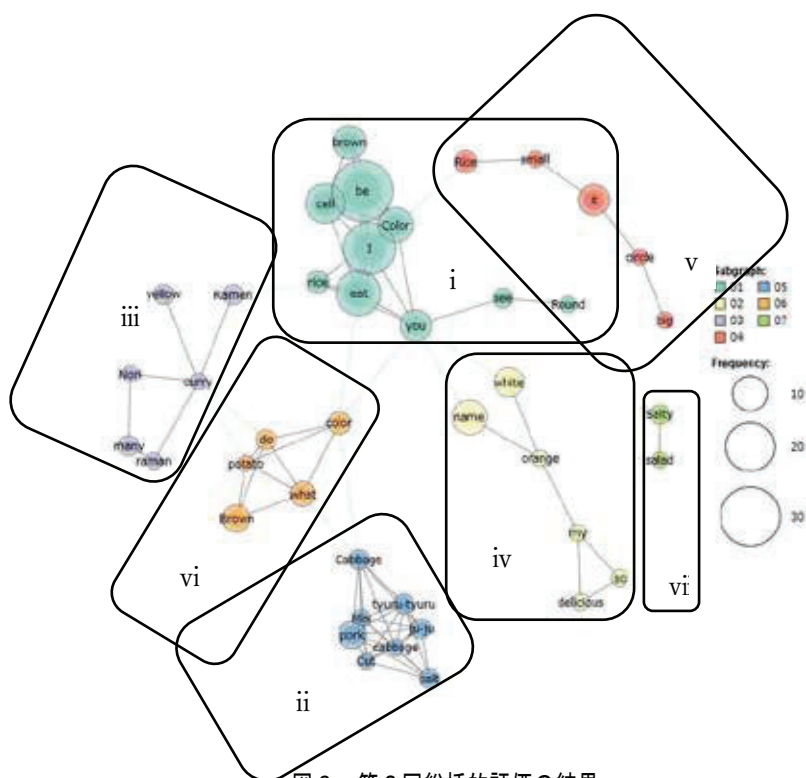


図6 第3回総括的評価の結果

であったため、色に言及する児童が多かったことがわかる。ivのネットワークは、what, color, do, potato, brownで構成されている。食べ物の色を伝えるだけではなく、たずねる児童もいたことがわかる。vのネットワークは、it, small, rice, circle, bigで構成されている。大きさや形についてもくわしく話していたことがわかる。viのネットワークは、so, delicious, my, orange, name, whiteで構成されている。viiのネットワークは、saladとsaltyで構成されているこれらのことから、味について話す児童もいたことがわかる。

④語彙の品詞の変化

表2より、名詞、固有名詞は増加した。形容詞と副詞の数には変化が見られなかった。動詞は、第2回総括的評価までは増加傾向だが、第3回総括的評価においては減少した。

表2 語彙の品詞

	名詞	固有名詞	形容詞	副詞	動詞
5年 Unit7	25	16	15	1	16
6年第1回総括的評価	45	20	13	8	21
6年第2回総括的評価	31	14	13	2	19
6年第3回総括的評価	58	22	13	3	8

(6) 考察

- i) 児童は、教科書のターゲットフレーズに縛られず、多様な語彙を使用することができるようになってきている。よって、Small Talk の継続は自由な発話の実現に効果的であることが考えられる。
- ii) 児童は自分の伝えたい意味内容を選択・決定することができるようになってきている。
- iii) 第3回の総括的評価において、動詞の数が減少したのは、タスクの内容の設定によるものであると考えられる。
- iv) 形容詞や副詞を付け加えて自分の伝えたい内容をよりくわしく伝え合うことができない児童もいる。
- vi) 疑問表現への慣れ親しみが不足していることが考えられる。

4 結論と今後の課題

本研究は、現行の指導要領で新たに追加された領域「話すこと〔やり取り〕」に着目し、Small Talk の継続的実践による児童の発話の変化を追究してきた。Small Talk を毎時間継続的に実践することにより、次の4つの効果があると言われている。①即興的にやり取りをする力が身に付く。②よりオーセンティックなコミュニケーションの経験を積み重ねることができる。③既習表現を必然的に思い出し、実際のやり取りにつなげることができる。④どんな話題でも会話を継続させるたくましさが身に付く。第3回総括的評価では、時間の制限を与えなかったところ、すべてのペアが5分以上英語でやり取りを継続することができていた。これも、Small Talk を継続してきた効果であると言えるであろう。児童が、ジェスチャーやオノマトペなども駆使しながら何とか伝えようと試行錯誤している様子を見て、Small Talk がオーセンティックなコミュニケーション能力の育成に効果的であることを実感している。今後は、より長期的に Small Talk を継続し、児童の発話に生じる変化を追究していく必要がある。そして、その時、どのようなタスクによって評価をするのかについても検討し続ける必要がある。

5 謝辞

研究を進めるにあたりご協力くださいました、実習校の児童・教職員の皆様に、心から御礼申し上げます。

6 資料

(1) Small Talk の導入 (T: 指導者, S: 児童)

T: What is the date today?

S: It's August 31st.

T: Today is special day for Japan! Can you guess?

S: Yasai?

T: Today is vegetable day! I love tomato! How about you? What vegetable do you like?

S: I like ...

T: Today's topic is vegetable. Let's start!

(2) 総括的評価における児童の発話

①第1回総括的評価

- ・ Doctor is nice work. I want to be a good doctor. My treasure is pencil case. So cute. I always study in English. Yes, I do. English and math and Japanese. My word, One for all, all for one. See you.

- ・ I like traveling. I want to be a Youtuber. I can calligraphy. I can study hard. See you.

- ・ I'm good at karate. My treasure is black belt. I will get good grade.

②第2回総括的評価

- ・ I went Shirakamisanchi. Do you know Shirakamisanchi? I saw many animals. So cute. I enjoyed nature. You can buy Shirakami key holder. Shirakami is a nice place. We can see animals. We can enjoy nature.

- ・ My name is NAME. We can go to the sea in Ajigasawa. You can eat the Kaisendon. You can see the beautiful sea. So, I recommend Ajigasawa.

- ・ I went to Apple Park. I ate soft cream. I saw apples. We enjoyed sliders. It's fun. Let's go to Apple Park. We can see apples. We can enjoy slider. See you.

③第3回総括的評価

・ Hello. Hello. I'm NAME. I'm NAME. I ate Karaage. What color is this? Brown. What shape? Gochagocha. How many? Five. Anything else? No. OK. What dinner do you like? I ate ramen and sweet curry, and fried potato. Color do you like? Brown and yellow. OK. Thank you.

・ Hello. Hello. It's Kappu-ramen. It's ramen. Paper youki. In mochi and naruto, and men. It's shoyu flavor. Shoyu soup. Many small circle. Color is brown. rice and miso-soup. Nikudango?

・ Hello. Hello. I ate pork. Pork and salt. Cabbage. Pork and salt and cabbage. Pork Katsu.

Ju-ju. Pork ju-ju? Cut. Cut. Cabbage cut. I ate tyuru-tyuru. Kore. Tyuru-tyuru. And, kimuchi. Pork mix. mix. Ju-ju and cabbage and kastu. And tyuru-tyuru. What's this? Pork-saute, butakimuchi.

(3) Small Talk のふり返し指標 (改訂版)

疑問表現の使用に課題があるため、9月の実践から、山口(2019)が提示するステップの疑問表現の部分を細分化して提示した。その結果、より高いステップを目指して児童が多様な疑問表現を使用するようになった。児童の実態に合わせて、指標も改善し続ける必要がある。



図7 自然な会話のための7つのステップ山口(2019) 中村改

引用・参考文献

- 1) Ellis, R. (2009). Task-Based Language Teaching: Sorting out the Misunderstandings. *International Journal of Applied Linguistics*, 19, 221-246
- 2) Ellis, R. (2003). *Task-Based Language Learning and Teaching*. Oxford: Oxford University Press
- 3) Skehan, P. (1998). *A Cognitive Approach to Language Learning*. Oxford: Oxford University Press
- 4) Willis, J. (1996). *A Framework for Task-Based Learning*. Harlow: Longman
- 5) 小口悠紀子(2018). 日本語教育における Task-based Language Teaching (TBLT) の実践に向けた試みータスクの設計に焦点を当ててー: 首都大学東京都市教養学部人文・社会系首都大学東京人文科学研究科「人文学報」第544-7号
- 6) 樋口耕一(2011). KH Coder 2.x チュートリアル
- 7) 松村昌紀・浦野研・川村一代・田村祐・福田純也(2017). *タスク・ベースの英語指導*: 大修館書店.
- 8) 文部科学省(2017). 『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』(pp.84-85)
- 9) 文部科学省(2018). 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編
- 10) 山口美穂(2019). 小学校英語サポート BOOKS 身近な話題で楽しく話せる! Small Talk 月別メニュー88: 明治図書
- 11) 山口美穂・巽徹(2020). Small Talk の継続的な実践による児童生徒の発話パフォーマンスの変化